## 第3節

# 同盟調整機能の強化

## 1

## 同盟調整メカニズムの設置

2015年11月、日米両政府は、日米防衛協力のための指針(ガイドライン)に基づき、わが国の平和および安全に影響を与える状況や、そのほかの同盟としての対応を必要とする可能性があるあらゆる状況に対して、日米両国による整合的な共同対処を切れ目のない形で実効的に対処することを目的として、同盟調整メカニズム(ACM)を設置した。

ACMでは、図表Ⅲ-2-3-1に示す構成に基づき、平時から緊急事態までのあらゆる段階における、自衛隊や米軍により実施される活動に関連した政策面や運用面の調整を行い、適時の情報共有や共通の情勢認識の構築・維持を行う。

その特徴は、①平時から利用可能であること、②日本 国内における大規模災害、インド太平洋地域やグローバ ルな協力でも活用が可能であること、③日米の関係機関 の関与を確保した政府全体にわたる調整が可能であるこ とであり、これらにより、日米両政府は、調整の必要が 生じた場合に適切に即応できるようになった。例えば、 国内で大規模災害が発生した場合においても、自衛隊や 米軍の活動にかかる政策面・運用面の様々な調整が必要 になるが、ACMの活用により、様々なレベルでの日米 の関係機関の関与を得た調整を緊密かつ適切に実施する ことが可能になった。

ACMの設置以降、例えば、平成28年熊本地震<sup>1</sup>や令和

図表Ⅲ-2-3-1

同盟調整メカニズム (ACM) の構成

#### 閣僚レベルを含む二国間の上位レベル

## 1

#### 必要に応じて

日米合同委員会(JC)			同盟調整グループ(ACG)			
Joint Com	Joint Committee		Alliance Coordination Group			
日本側 外務省北米局長 在	米 側 在日米軍副司令官 (代表)	相互調整•情報交換	局長級	日本側 - 内閣官房(国家安全保障局を 含む)、外務省、防衛省・自衛隊、 関係省庁 <sup>(注)</sup> の代表	米 側 国家安全保障会議 <sup>(注)</sup> 、国務省 <sup>(注)</sup> 、 在日米大使館、国防省国防長官府 <sup>(注)</sup> 、 統合参謀本部 <sup>(注)</sup> 、大下关下等。司令部 <sup>(注)</sup> 、	
(代表)			課長級			
		換など	担当級	(注)必要に応じて参加	在日米軍司令部、関係省庁(注)の代表       (注)必要に応じて参加	
日米地位協定の実施に関して相互間の協議を 必要とする全ての事項に関する政策面の調整			○自衛隊および米軍の活動に関して調整を必要とする全ての事項に関する政策面の調整 ○切れ目のない対応を確保するため、ACGは、JCと緊密に調整			

相互調整・情報交換など

共同運用調整所(BOCC)					
Bilateral Operations Coordination Center					
日本側	米側				
統幕、陸・海・空幕の代表	インド太平洋軍司令部、在日米軍司令部の代表				
自衛隊および米軍の活動に関する運用面の調整を実施する第一義的な組織					

-相互調整・情報交換など

: 相互調整・情報父操など					
各自衛隊および米軍各軍間の調整所(CCCs)					
Component Coordination Centers					
日本側	米側				
陸・海・空自の代表	各軍の構成組織の代表				
○各自衛隊および米軍各軍レベルの二国間調整を促進 ○湾田か得る ロルタ ケナナ は日本 1975 年 1787 1875 年 1875 日本 1975					

│○適切な場合、日米各々または双方が統合任務部隊を設置し、さらにCCCsを設置する場合がある。

6年能登半島地震2、北朝鮮の弾道ミサイル発射や尖閣諸 島周辺海空域における中国の活動について、日米間で は、ACMも活用しながら、緊密な連携がとられている。

国家防衛戦略では、ACMを中心とする日米間の調整

機能をさらに発展させるほか、日米同盟を中核とする同 志国などとの連携を強化するため、ACMなどを活用し、 運用面におけるより緊密な調整を実現するとしている。

■ 参照 図表 III -2-3-1 (同盟調整メカニズム (ACM) の構成)

## VOICE

#### 日米間の調整業務を通じて感じたこと

### 防衛政策局 日米防衛協力課 2等海佐 髙橋 晃博

私は2022年3月から、防衛政策局日米防衛協力課に 勤務しており、同盟調整グループ (ACG) における日米 間調整を担当しています。

ACGは、平素から有事に至るあらゆる局面において、 切れ目なく対処することを目的として設置されていま すが、実態としても、横田基地に所在する在日米軍司令 部と日々緊密に連携をとりながら、日米における様々な 調整業務を行っています。

令和6年能登半島地震においても、同盟調整メカニズ ム (ACM) を通じた発災直後からの速やかな日米調整 のもと、米軍による多大な支援を頂くことができまし た。この場を借りて、今回の震災支援に携わってくだ さった米軍の方々に心からの感謝を申し上げます。

「同盟調整メカニズム」といえども、その根幹は「人と 人とのつながり」であることを、この勤務を通じて感じ とることができました。今後とも米側のカウンターパー トとともに、「サイド・バイ・サイド」で肩を組みなが ら、ACGにおける日米協力をより強固なものにしてい きたいと思います。



会議に参加する筆者達 (奥)

#### 在日米軍司令部

#### ジェレミー・ガルディニエ 陸軍少佐

私は2022年7月から、横田基地に所在する在日米軍 司令部の政府関係副課長として勤務しております。

在日米軍司令部の主な役割は、自由で開かれたインド 太平洋を維持するため、日本への脅威に対して抑止・対 処し、米日同盟を強化することです。

私の司令部における業務のうち、最も重要であると考 える職務は、ACGの担当としての職務です。ACGは、 2015年の米日防衛協力のための指針に基づき設置され たACMの実務者レベルの協議体で、迅速な対応が求め られる厳しい環境において、様々な事態に柔軟、迅速か つ効果的に対応するために設置された枠組みです。

令和6年能登半島地震において、国家安全保障局や外 務省などの関係省庁が集まり、ACMに基づき必要な調 整を行い、極めて有意義な形でACMの有用性を発揮す ることができました。

過去と比べて格段と速やかに米軍支援の調整を行う ことができ、その結果、支援を必要としている人々の役 に立てたことがとても嬉しいです。

引き続き、ACM/ACGを通じた二国間の連携を強化 していきたいと思います。



「サイド・バイ・サイド」肩を組み合う筆者達

2024年1月、能登半島を中心に生起した一連の地震活動。

## 運用面におけるより緊密な調整

日米両政府は、ガイドラインに基づき、運用面の調整 機能併置の重要性を認識し、自衛隊と米軍は、緊密な情 報共有、円滑な調整や国際的な活動を支援するための要 員の交換を実施することとしている。

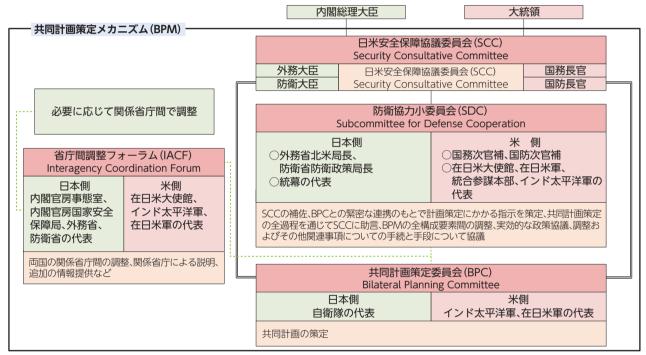
2015年11月、日米両政府は、ガイドラインに基づき、 わが国の平和および安全に関連する緊急事態に際して効 果的な日米共同対処を可能とするため、平時において共 同計画の策定をガイドラインにしたがって実施すること

を目的とし、共同計画策定メカニズム (BPM) を設置し た。BPMは、共同計画の策定に際し、閣僚レベルからの 指示・監督や関係省庁の関与を確保するとともに、共同 計画の策定に資する日米間の各種協力についての調整を 実施する役割を果たすものであり、両政府は、BPMを通 じ、共同計画を策定していくこととしている。

**□ 参照** 図表Ⅲ-2-3-2 (共同計画策定メカニズム (BPM) の 構成)

図表Ⅲ-2-3-2

共同計画策定メカニズム (BPM) の構成



凡例:調整 ------

BPMにおける指揮 ——

自衛隊/米軍の指揮系統 -